

環境経営レポート

2022 年度版

(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)



作成：2023 年 6 月 13 日

木村管工株式会社

目次

1. 環境経営方針	2
2. 事業の内容	3
3. 環境経営目標とその実績	12
4. 主な環境経営活動計画の内容	13
5. 環境への取組状況	14
6. 次年度の環境経営目標及び環境計画	17
7. 環境関連法規への違反・訴訟等の有無	18
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	18
9. 次回の活動予定内容	19
10. 2021 年度受託した産業廃棄物の処理量	19

1. 環境経営方針

木村管工株式会社は、会社の発展と地球環境保全との調和を積極的に進めるべく産業廃棄物の中間処理、資源リサイクルを独自の観点から積極的に推進し人間と自然との共生を図り、社会の持続的発展に寄与してまいります。

このように全社を挙げてこれからも地球環境保全に積極的に取り組んでまいります。

1. 環境への影響を調査及び評価し、当社の活動・製品及びサービスから発生する環境負荷を与えている主要因を効果的に低減または削減するために技術的・経済的に可能な範囲で達成すべき環境目的及び環境目標を定めます。
2. 環境改善計画を立案・実施し成果を評価して見直し、さらには次なる改善目標及び目標につなげるための環境マネジメントシステムを構築します。
3. 当社には順守しなくてはならない法律があります。これらの環境に関する法令・規制・条例・協定・その他近隣の方々との合意事項等を順守するのみならず先進の精神で積極的に環境保全を図ります。
4. 従業員に必要な教育・訓練を行い、環境保全意識が高く模範的行動がとれる人材を育成します。
5. 本社・各事業所で可能な範囲の美化運動を推進します。
6. 次の項目については、積極的に推進します。
 - 全社を上げて水使用量・二酸化炭素排出量・電気使用量・化石燃料使用量・最終処分廃棄物等の削減への取組
 - 当社に廃棄物を持ち込む・持ち出す事業者に対してアイドリングストップの協力
 - リサイクル化の推進を通し社会に貢献
 - 廃棄物処理における環境配慮（重機の適切な運転、お客さんの車両待機時間の短縮）
 - 中和薬剤等（希硫酸）の適切な管理を行う

令和5年3月15日

木村管工株式会社

代表取締役

木村 雅生

2. 事業の内容

①会社概要

会社名	木村管工株式会社
本社住所	神奈川県横浜市保土ヶ谷区今井町 1120 番地 1
代表者	代表取締役 木村 雅生
資本金	1,000 万円
設立年月日	1979 年 3 月 13 日
外観	
取扱い産業廃棄物	燃え殻、汚泥、廃油、廃プラスチック類、紙くず、木くず 繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず 廃アルカリ、鋳さい、がれき類、はいじん、政令 13 号物
事業内容	産業廃棄物の収集運搬及び処分（中間処理業）、リサイクル業 建設資材製造販売

	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度
従業員数（4 月現在）	68 名	71 名	69 名	73 名
売上（百万円）	1,531	1,449	1,287	1,289
中間処理量	33,176.0 t	33,989.4 t	27,783.5 t	25,650.3 t
収集運搬量	6,776.5 t	9,232.2 t	5,954.2 t	6,034.4 t
処理後の最終処分量	2,489.0 t	1,752.2 t	1,568.3 t	1,346.6 t

保有車両	10 t 車	4 台	4 t 車	4 台	3 t 車	4 台
	軽トラック	1 台	営業車	3 台	1.5 t 車	1 台

②所在地及び施設概要

保土ヶ谷今井事業所	
住所	神奈川県横浜市保土ヶ谷区今井町 1151
保管面積（積替保管）	338.73 平方メートル
保管上限（積替保管）	693.49 立方メートル

積上高さ（積替保管）	2.5 メートル
廃棄物の種類（積替保管）	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず 金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類
保有重機	バックホー 1 台 ホイローダー 1 台 フォークリフト 1 台
敷地面積	988 m ²

上瀬谷事業所	
住所	神奈川県横浜市瀬谷区上瀬谷町 46-1
保管面積（積替保管）	449.08 平方メートル
保管上限（積替保管）	1018.15 立方メートル
廃棄物の種類（積替保管）	汚泥、廃油、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず 金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類
保管上限（積替保管・特管）	1.9 立方メートル
廃棄物の種類（特管）	廃油
処理能力（中間処理） 及び廃棄物の種類	圧縮：10.4 t /日 （設置年月日：平成 2004 年 2 月 3 日） 廃プラスチック類、紙くず、繊維くず 最大保管量：14.6 立法メートル
保有重機	バックホー 3 台 ホイローダー 1 台 フォークリフト 2 台
敷地面積	3,910 m ²

川崎岡上事業所	
住所	神奈川県川崎市麻生区岡上 1028
保管面積（積替保管）	75.1 平方メートル
保管上限（積替保管）	99.2 立方メートル
積上高さ（積替保管）	容器 1 段積みに限る
廃棄物の種類（積替保管）	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず 金属くず、ガラスくず、がれき類
処理能力（中間処理）	圧縮：9.6 t /日 （設置年月日：2004 年 3 月 15 日） 廃プラスチック類
保有重機	バックホー 1 台 ホイローダー 1 台 フォークリフト 1 台
敷地面積	1,251 m ²

北町中間処理プラント	
住所	神奈川県横浜市瀬谷区北町 20-20
保管面積（積替保管）	6.9 平方メートル
保管上限（積替保管）	8 立方メートル
廃棄物の種類（積替保管）	廃プラスチック類、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類 ※石綿含有産業廃棄物を含むものに限る
処理能力（中間処理）	破碎①：78 t/日 （設置年月日：2001 年 5 月 23 日） 木くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類 破碎②：4.98 t/日 （設置年月日：2001 年 5 月 23 日） 廃プラスチック類 圧縮：8.32 t/日 （設置年月日：2004 年 2 月 3 日） 廃プラスチック類、紙くず、繊維くず、金属くず 選別：160 t/日 （設置年月日：2017 年 1 月 12 日） 廃プラスチック類、紙くず、繊維くず、金属くず 木くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類 最大保管量：490.89 立法メートル
保有重機	バックホー 3 台 フォークリフト 1 台
敷地面積	1,215 m ²

資材再生プラント	
住所	神奈川県横浜市瀬谷区目黒町 9-7
処理能力（中間処理）	分級造粒固化：210 t/日 （設置年月日：2009 年 10 月 1 日） 木くず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類 破碎：31.2 t/日 （設置年月日：2013 年 2 月 28 日） ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類 最大保管量：1959.08 立法メートル
保有重機	バックホー 2 台 ホイルローダー 1 台
敷地面積	3397.45 m ²

③対象範囲

全組織、全活動

④環境管理責任者：担当者氏名及び連絡先

環境管理責任者：木村 雅生

担当者：雨宮 慧

連絡先：電話 045-351-9640 FAX045-351-9531

⑤許可内容

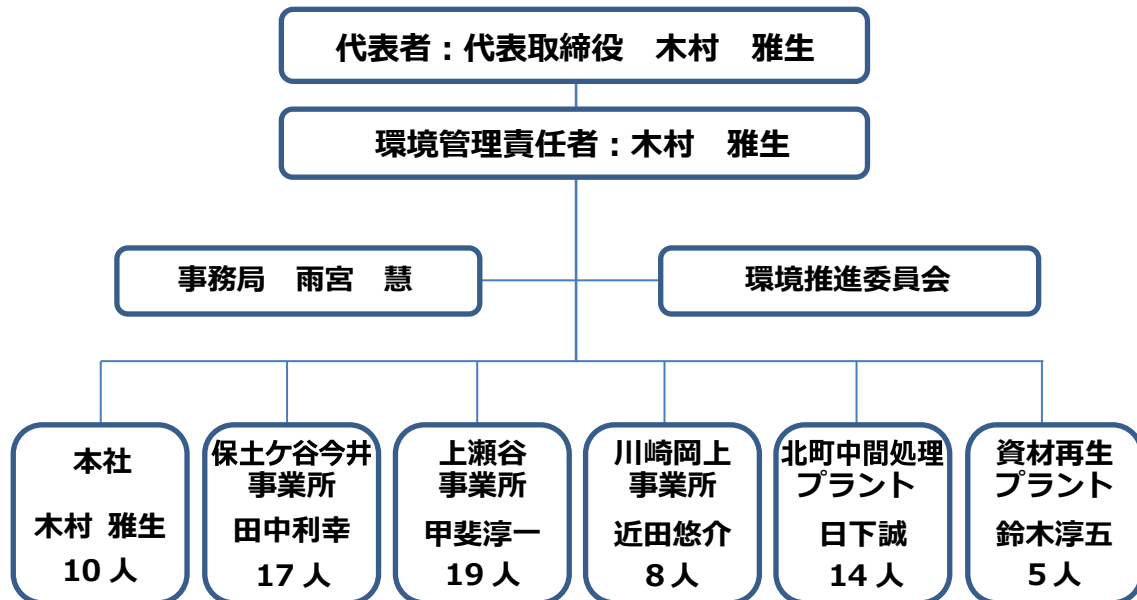
都道府県・市	業区分	許可番号	許可年月日	許可期限
横浜市 (※1)	処分	第 05620001425 号	2018 年 4 月 1 日	2025 年 3 月 31 日
川崎市 (※2)	処分	第 05720001425 号	2016 年 4 月 1 日	2023 年 3 月 31 日
横浜市 (※3)	収集運搬 (積保)	第 05610001425 号	2018 年 4 月 1 日	2025 年 3 月 31 日
川崎市 (※4)	収集運搬 (積保)	第 05710001425 号	2017 年 11 月 1 日	2024 年 10 月 31 日
神奈川県 (※5)	収集運搬	1402001425	2017 年 10 月 13 日	2024 年 9 月 28 日
東京都 (※6)	収集運搬	第 13-00-001425 号	2023 年 4 月 1 日	2030 年 2 月 28 日
千葉県 (※7)	収集運搬	第 1200001425 号	2016 年 8 月 17 日	2023 年 8 月 31 日
群馬県 (※8)	収集運搬	01000001425	2018 年 9 月 10 日	2025 年 9 月 9 日
埼玉県 (※9)	収集運搬	01100001425	2017 年 2 月 3 日	2024 年 2 月 2 日
静岡県 (※10)	収集運搬	第 02201001425 号	2021 年 9 月 2 日	2028 年 9 月 1 日
栃木県 (※11)	収集運搬	00900001425	2023 年 3 月 14 日	2030 年 3 月 13 日
茨城県 (※12)	収集運搬	00801001425	2018 年 10 月 12 日	2023 年 10 月 11 日
横浜市 (※13)	収集運搬 (特管)	第 05660001425 号	2017 年 5 月 1 日	2024 年 4 月 30 日
神奈川県 (※14)	再生事業者	第 G00241 号	2022 年 5 月 17 日	—

〔備考：許可を受けた産業廃棄物の種類〕

- (※1) (1)破砕：廃プラスチック類、木くず・ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
(2)圧縮：廃プラスチック類、紙くず、繊維くず、金属くず
(3)選別：廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
(4)分級・造粒固化：木くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類（上記物は特別管理産業廃棄物であるものを除く。）
- (※2) 圧縮梱包：廃プラスチック類（特別管理産業廃棄物であるものを除く。）
- (※3) (1)収集・運搬（積替え及び保管を除く）
汚泥（水銀使用製品産業廃棄物を含む）、廃油、廃プラスチック類（水銀使用製品産業廃棄物を含む及び石綿含有産業廃棄物を含む）、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず（水銀使用製品産業廃棄物を含む）、ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物を含む）（水銀使用製品産業廃棄物を含む）、がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む）（上記物はいずれも特別管理産業廃棄物であるものを除く。）
(2)収集・運搬（積替え及び保管を含む）
汚泥（水銀使用製品産業廃棄物を含む）、廃油、廃プラスチック類（水銀使用製品産業廃棄物を含む及び石綿含有産業廃棄物を含む）、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず（水銀使用製品産業廃棄物を含む）、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物を含む）（水銀使用製品産業廃棄物を含む）、がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む）（上記物はいずれも特別管理産業廃棄物であるものを除く。）
- (※4) (1)収集・運搬（積替え及び保管を含む）
廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、がれき類（特別管理産業廃棄物であるものを除く。）
(2)収集・運搬（積替え及び保管を除く）
燃え殻、汚泥（水銀使用製品産業廃棄物を含む）、廃油、廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物を含む及び水銀使用製品産業廃棄物を含む）、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず（水銀使用製品産業廃棄物を含む）、ガラスくず（石綿含有産業廃棄物を含む及び水銀使用製品産業廃棄物を含む）、鉞さい、がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む）（特別管理産業廃棄物であるものを除く。）
- (※5) 燃え殻、汚泥（水銀使用製品産業廃棄物を含む）、廃油、廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物を含む）（水銀使用製品産業廃棄物を含む）、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず（水銀使用製品産業廃棄物を含む）、ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物を含む）（水銀使用製品産業廃棄物を含む）、鉞さい、がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む）、ばいじん
- (※6) 燃え殻、汚泥、廃油、廃プラスチック、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、鉞さい、がれき類、ばいじん
法令 13 号物（石綿含有産業廃棄物を含む）（水銀使用製品産業廃棄物を含む）
- (※7) 廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物を含み、自動車等破砕物を除く）、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず（自動車等破砕物を除く）、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物を含み、自動車等破砕物を除く）、がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む）
- (※8) 廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物を含む）、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物を含む）、がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む）
- (※9) 燃え殻、汚泥、廃油、廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物を含む）、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物を含む）、がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む）
- (※10) 廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物を含む）、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物を含む）、がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む）、燃え殻、汚泥、廃油、廃アルカリ、紙くず、木くず、繊維くず、鉞さい、ばいじん
- (※11) 燃え殻、汚泥、廃油、廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物、水銀使用製品産業廃棄物を含む）、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず（水銀使用製品産業廃棄物を含む）、ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物、水銀使用製品産業廃棄物を含む）、がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む）
- (※12) 燃え殻（水銀含有ばいじん等を除く。）、汚泥（水銀使用製品産業廃棄物を含み、水銀含有ばいじん等を除く。）、廃油（水銀含有ばいじん等を除く。）、廃プラスチック類（自動車等破砕物を除き、石綿含有産業廃棄物水銀使用製品産業廃棄物を含む。）、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず（自動車等破砕物を除き、石綿含有産業廃棄物水銀使用製品産業廃棄物を含む。）、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（自動車等破砕物を除き、石綿含有産業廃棄物水銀使用製品産業廃棄物を含む。）、がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む）
- (※13) 廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類に限り、特定有害産業廃棄物であるものを除く）
- (※14) ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類の再生

⑥組織図及び役割

木村管工株式会社の環境組織体制図



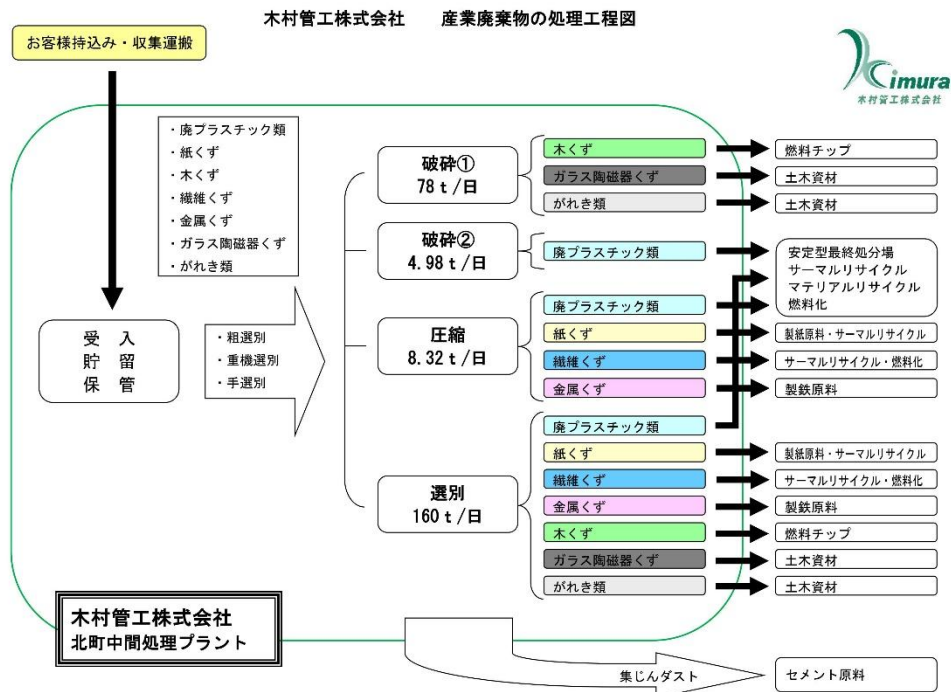
木村管工株式会社の環境組織における役割・責任・権限	
代表者 代表取締役 木村 徹	・エコアクション 21 運営に関する統括責任及び環境管理責任者の任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・代表者による全体の評価と見直しの実施 ・経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者 木村 雅生	・エコアクション 21 システムの構築、実施、管理責任 ・各事業所の環境活動の取組結果を代表者への報告 ・環境活動レポートの承認
事業所長	・環境経営方針の職場への周知 ・所内の環境目標・環境活動計画の実行と活動の確認。 ・所内の環境目標・環境活動計画の是正処置の実行
環境推進委員会	・環境目標、環境活動計画の伝達 ・社員の意思統一、環境活動の実施状況の確認 ・環境活動の目標達成状況、問題点などの報告
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、全社の環境目標の立案・企画 ・エコアクション 21 システムの要求規格への対応 ・環境関連の外部への窓口及び審査対応 ・環境活動計画書の作成と運用 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成と順守評価 ・環境活動レポートの作成、公開 ・環境への取組の自己チェック及び環境への負荷の自己チェック
全社員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性の自覚と実践 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

⑦有資格者一覧（2023 年 3 月末時点）

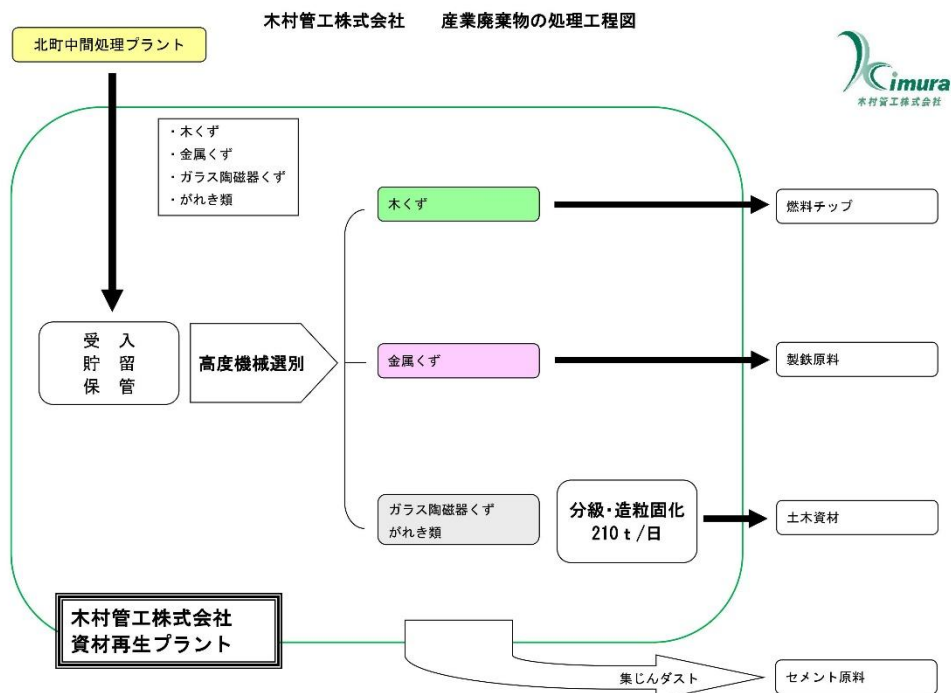
資格・講習・特別教育	人数	資格・講習・特別教育	人数
破碎・リサイクル施設技術管理士	7	3 級ファイナンシャル・プランニング技能士	1
車両系建設機械運転技能講習	32	サービス接遇実務検定 2 級	1
車両系建設機械運転技能講習（解体）	11	トレース技能検定 2 級	1
フォークリフト運転技能講習	39	自衛消防業務講習	1
中型自動車免許	44	自衛消防技術認定証	1
普通自動車免許	3	低電圧取扱技工	1
大型自動車免許	12	普通救命講習	1
大型特殊自動車免許	5	上級救命講習	1
普通自動二輪	18	現場派遣員基礎講習	1
原付自動車	16	自動車単種目普通資格	1
大型自動二輪	2	自動車整備検査員	1
第二種中型自動車運転免許	2	玉掛作業	1
けん引免許	3	酸素欠乏危険作業	2
クレーン運転	1	職長安全衛生教育	1
小型移動式クレーン運転技能講習	6	職長・安全衛生責任者	2
床上操作式クレーン	2	ボイラー取付技能講習	1
小型車両系建設機械	1	研削といしの取換え等の業務	1
不整地運搬車両	1	産業廃棄物収集運搬車両運転手	3
安全衛生推進者	3	小型船舶操縦免許	1
安全管理者専任時研修終了	1	研削といしの取扱者特別教育	1
職長教育終了	2	締固め機	1
土止支保工作作業主任者	3	電気取扱業務	1
酸素欠乏危険作業主任者	4	土木工事の現場安全施工管理	1
有機溶剤作業主任者	1	特定粉じん作業	1
足場の組立て等作業主任者	2	行政書士	1
宅地建物取引主任者	1	汚染土壌運搬担当者講習	1
3 級自動車ガソリンエンジン整備士	2	適正処理の基礎知識及び実務に関する講習会	1
2 級ガソリン自動車整備士	1	車両系建設機械運転技能講習（基礎）	1
2 級ジーゼル自動車整備士	1	J R 東日本重機運転者資格認定証	1
危険物取扱乙種第 4 種取扱者	2	足場の組立て等特別教育	1
玉掛技能講習	12	廃棄物処理検定（廃棄物処理法基礎）	4
ガス溶接技能講習	7	マイクロソフトオフィススペシャリスト	1
アーク溶接技能講習	6	最終処分場技術管理士	1
特定化学物質等作業主任者技能講習	4	産業廃棄物処理 e ラーニング講座（廃棄物処理法基礎）	10
高所作業車運転技能講習	6	産業廃棄物処理 e ラーニング講座（収集運搬現場業務）	7
地山の掘削作業主任者講習	3	産業廃棄物処理 e ラーニング講座（中間処理現場業務）	10
石綿取扱い作業従事者特別教育	1	メンタルヘルスマネジメントⅡ種	1
2 級土木施工管理技士	3	調理師	1
簿記 3 級	2	電気工事士	1
第二種衛生管理者	1	冷媒回収技術者	1

⑧処理工程図

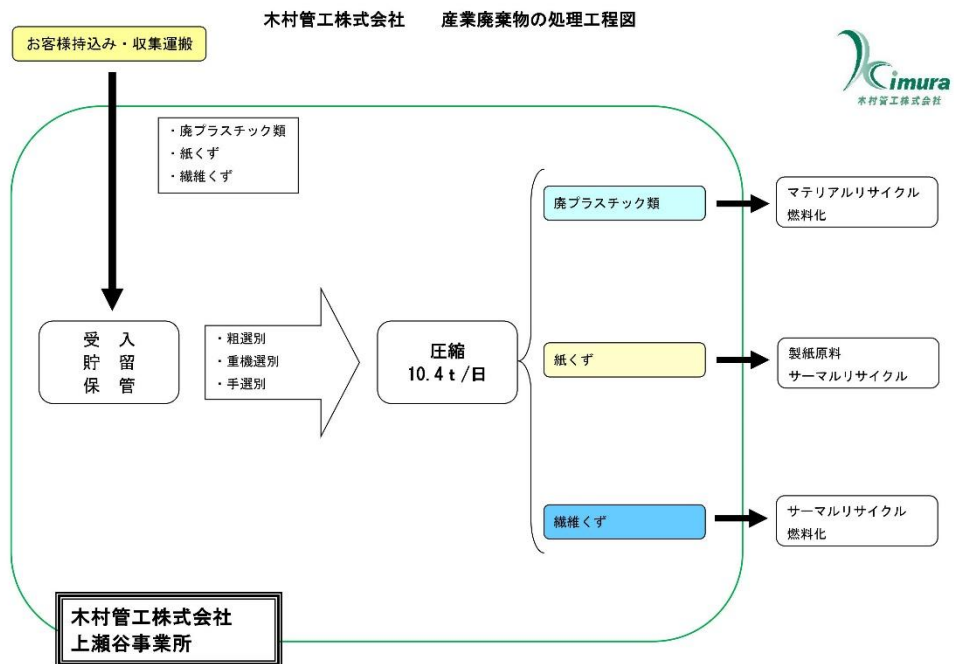
・北町中間処理プラント



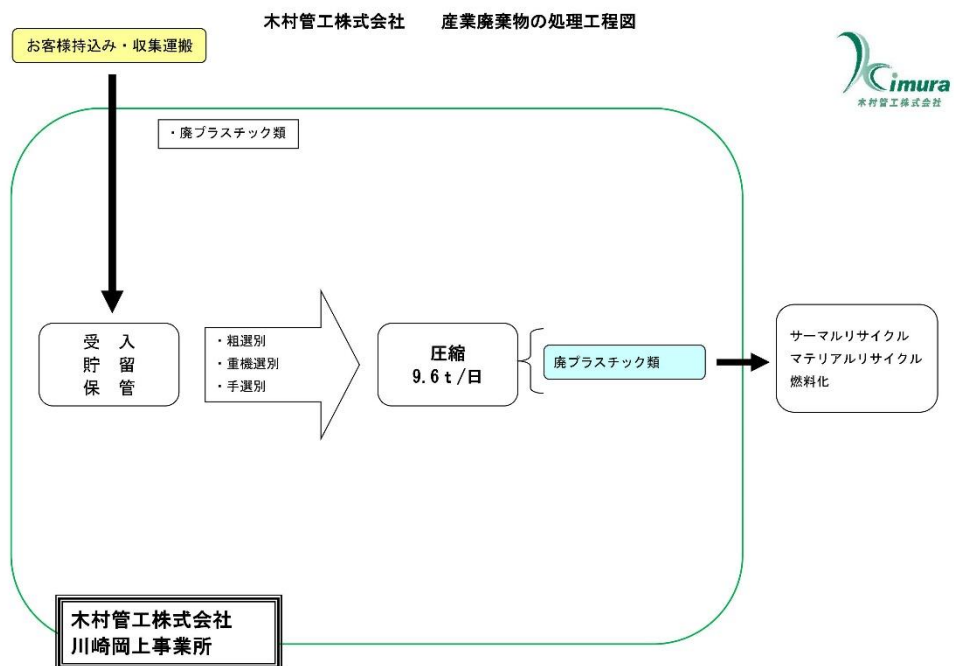
・資材再生プラント



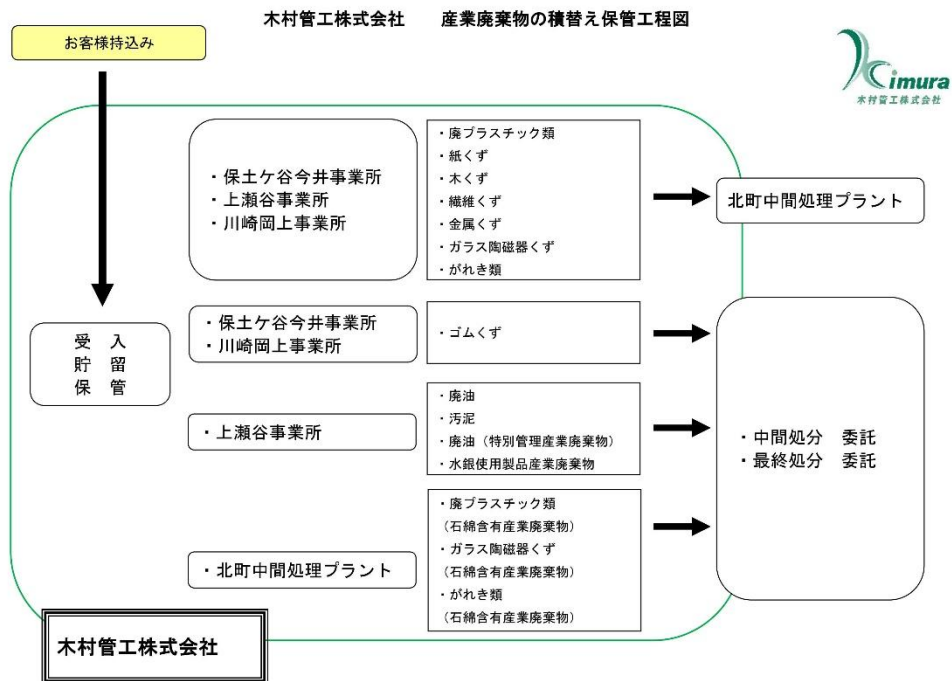
・上瀬谷事業所



・川崎岡上事業所



・積替え保管工程図



3. 環境経営目標とその実績

①環境経営目標

木村管工株式会社は、会社の発展と地球環境保全との調和を積極的に進めるべく、産業廃棄物の中間処理・資源リサイクルを独自の観点から積極的に推進し、最終処分量（率）を低減し人間と自然の共生を図り、社会の持続的発展に寄与して参ります。

環境負荷と環境への取組結果を踏まえ定めた環境負荷低減のための目標と実績は次の通りである。

②中期環境負荷低減目標（2022 年度から 2024 年度までの中期目標）

アウトプット項目	単位	2021 年度実績	2022 年度目標	2023 年度目標	2024 年度目標
電力使用量削減 ①前年比 1%削減 ②産業廃棄物の受入れ 量に対しての使用率を、 前年度比 1%削減	kwh/年	①使用量 67,793.0 ①二酸化炭素排出量 28,585.2 ②使用量 277,558.0 ②使用率 5.03774 ②二酸化炭素排出量 134,615.6 ※総二酸化炭素排 163,200.9	①使用量 67,115.1 ①二酸化炭素排出量 28,299.3 ②使用量 274,782.4 ②使用率 4.98736 ②二酸化炭素排出量 133,269.4 ※総二酸化炭素排出量 161,568.9	①使用量 66,443.9 ①二酸化炭素排出量 28,585.2 ②使用量 272,034.6 ②使用率 4.93748 ②二酸化炭素排出量 131,936.7 ※総二酸化炭素排出量 155,953.2	①使用量 65,779.5 ①二酸化炭素排出量 28,299.3 ②使用量 269,314.3 ②使用率 4.88810 ②二酸化炭素排出量 130,617.3 ※総二酸化炭素排出量 154,393.7
軽油使用量削減（車両） ①産業廃棄物の収集運搬 量に対しての使用率を、 前年度比 1%削減 軽油使用量削減（重機） ②産業廃棄物の受入れ 量に対しての使用率を、 前年度比 1%削減	ℓ/年	①使用量 83,178.8 ①使用率 0.07131 ①二酸化炭素排出量 218,289.1 ②使用量 147,637.9 ②使用率 1.06981 ②二酸化炭素排出量 ②446,129.9 ※総二酸化炭素排出量 664,419.0	①使用量 82,347.0 ①使用率 0.07060 ①二酸化炭素排出量 216,106.2 ②使用量 146,161.5 ②使用率 1.05912 ②二酸化炭素排出量 441,668.6 ※総二酸化炭素排出量 657,774.8	①使用量 81,523.5 ①使用率 0.06989 ①二酸化炭素排出量 213,945.1 ②使用量 144,699.9 ②使用率 1.04853 ②二酸化炭素排出量 437,251.9 ※総二酸化炭素排出量 651,197.1	①使用量 70,708.3 ①使用率 0.06919 ①二酸化炭素排出量 211,805.6 ②使用量 143,252.9 ②使用率 1.03804 ②二酸化炭素排出量 432,879.4 ※総二酸化炭素排出量 644,685.1
ガソリン使用量削減 産業廃棄物の受入れ量 に対しての使用率を、前年 度比 1%削減	ℓ/年	使用量 4,775.6 使用率 0.17269 二酸化炭素排出量 11,087.2	使用量 4,727.8 使用率 0.16493 二酸化炭素排出量 10,976.3	使用量 4,680.5 使用率 0.16328 二酸化炭素排出量 10,866.5	使用量 4633.7 使用率 0.16165 二酸化炭素排出量 10,757.8
二酸化炭素排出量削減 産業廃棄物の受入れ量 に対しての排出率を、前年 度比 1%削減	kg-co2/年	排出量 771,318.7 排出率 28.41119	排出量 763,605.5 排出率 28.12708	排出量 755,969.4 排出率 27.84580	排出量 748,409.7 排出率 27.56734

水使用量削減 ①前年比 1%削減 ②産業廃棄物の受入れ 量に対しての使用率を、 前年度比 1%削減	m ³ /年	①使用量 444.0 ②使用量 3,568.0 ②使用率 0.02271	①使用量 439.6 ②使用量 3,532.3 ②使用率 0.02249	①使用量 435.2 ②使用量 3,497.0 ②使用率 0.02226	①使用量 430.8 ②使用量 3,462.0 ②使用率 0.02203
廃棄物排出量削減 産業廃棄物の受入れ量 に対しての排出率を、前年 度比 1%削減	Kg/年	排出量 1,568.3 排出率 0.05650	排出量 1,552.6 排出率 0.05588	排出量 1,537.1 排出率 0.05532	排出量 1,521.7 排出率 0.05477
化学物質使用量削減 (中和剤の管理漏洩ゼロ)	件	0.0	0.0	0.0	0.0
収集運搬・処分における環境 配慮及びサービスの改善 ①リサイクル率の向上 ②搬入車両の待機時間 20 分以内	% 件	94.4 0.0	94.5 0.0	94.6 0.0	94.7 0.0

※目標値：2021 年度実績を基準に 2024 年度まで設定。

※リサイクル率＝再資源物・中間処理後再資源化物／搬入量

※目標設定時の購入電力の二酸化炭素排出係数：0.485kg-co2/kwh、0.361kg-co2/kwh、0.476kg-co2/kwh を使用した。

※収集運搬業務に力を入れるため化石燃料（軽油・ガソリン）の使用量増加が見込まれる。

※積極的な営業活動を行い、仕事量が増えていくと思うが各使用量を抑えたい。

※事業所により目標設定が異なる。

③中期環境負荷低減実績（2017 年度から 2021 年度までの実績）

アウトプット項目	単位	2017 年度実績	2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度実績
電力使用量	kwh/年	493,411.0	473,191.0	433,962.2	358,239.0	345,351.0
軽油使用量	ℓ/年	295,104.2	305,026.7	282,027.9	255,651.3	230,816.5
ガソリン使用料	ℓ/年	7,891.9	6,448.0	5,721.9	5,425.7	4,775.6
二酸化炭素排出量	kg-co2/年	1,042,007.8	1,090,640.0	968,775.8	898,825.3	771,318.7
水使用量	m ³ /年	6,987.0	6,831.0	5,567.0	3,557.0	4,012.0
リサイクル率の向上	%	93.3	94.4	92.5	94.8	94.4
中和剤の管理（漏洩）	件	0.0	0	0	0	0
環境配慮（搬入車両の待機時間 20 分以内）	件	0.0	0	0	0	0

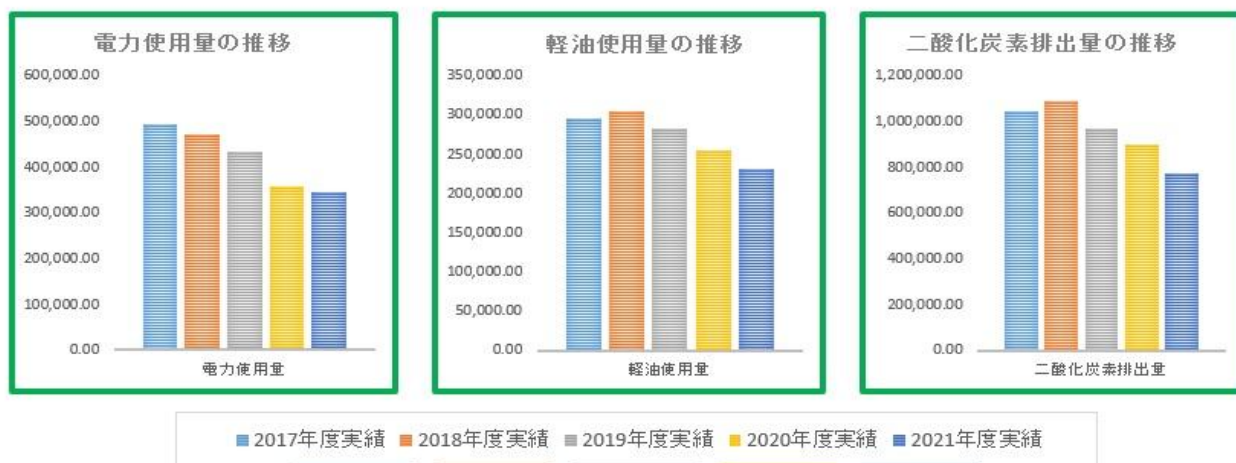
※リサイクル率＝再資源物・中間処理後再資源化物／搬入量

※購入電力の排出係数：2017 年度は 0.505kg-co2/kwh を使用、2018 年度は 0.474 及び 0.577kg-co2/kwh、

2019 年度は 0.577kg-co2/kwh を使用した。2020 年度は 0.541kg-co2/kwh、0.601kg-co2/kwh、

0.476kg-co2/kwh、2021 年度は 0.485kg-co2/kwh、0.361kg-co2/kwh、0.476kg-co2/kwh を使用した。

●二酸化炭素排出量に大きく関わる「電力使用量」「軽油使用量」の推移グラフ



4. 主な環境経営活動計画の内容

当社の主要な環境保全に向けた具体的な取組内容を以下に示す。

- ①総エネルギー投入量・温室効果ガス排出量削減
 - 社用車の効率的な運転の推進
 - 無駄なアイドリングをせず、アクセルむらのない運転の推進
 - 排出ガス削減型の建設機械の選定
 - 重機の効率的な使用
 - 昼休みの照明消灯（減灯）
 - 保有重機の使用頻度の見直しによる減車
- ②廃棄物（一般廃棄物）最終処分量削減
 - 紙類の分別回収による資源化
 - 裏紙の使用
 - 弁当を容器再使用業者からの購入
- ③廃棄物（産業廃棄物）最終処分量削減
 - 自社プラントによって再資源化された改良砂・改良土の製造販売
 - 金属類の分別回収による再資源化
 - ダンボールなどの紙くずの分別回収による再資源化
 - 新しいリサイクル搬出先の確保
 - 分別の徹底
- ④水資源投入量削減
 - 節水コマの設置
 - 効率的な散水
- ⑤環境経営システムに関わる取組実施率向上
 - 社内コミュニケーションの活性化による情報の共有

5. 環境への取組状況

環境活動の取組結果の評価

今年度の環境保全活動が終了し、社長と環境管理担当部門が環境への取組結果の評価を行った。

評価結果は次の通りである。

アウトプット項目	単位	2022 年度目標	2022 年度実績	評価
電力使用量削減 ①前年比 1%削減 ②産業廃棄物の受入れ 量に対しての使用率を、 前年度比 1%削減	kwh/年	①使用量 67,115.1 ①二酸化炭素排出量 28,299.3 ②使用量 274,782.4 ②使用率 4.98736 ②二酸化炭素排出量 133,269.4 ※総二酸化炭素排出量 161,568.9	①使用量 63,823.0 ①二酸化炭素排出量 31,528.6 ②使用量 247,397.0 ②使用率 4.82568 ②二酸化炭素排出量 119,987.6 ※総二酸化炭素排出量 151,516.1	①達成 ②達成
軽油使用量削減（車両） ①産業廃棄物の収集運搬 量に対しての使用率を、 前年度比 1%削減 軽油使用量削減（重機） ②産業廃棄物の受入れ 量に対しての使用率を、 前年度比 1%削減	ℓ/年	①使用量 82,347.0 ①使用率 0.07060 ①二酸化炭素排出量 216,106.2 ②使用量 146,161.5 ②使用率 1.05912 ②二酸化炭素排出量 441,668.6 ※総二酸化炭素排出量 657,774.8	①使用量 82,967.1 ①使用率 0.07309 ①二酸化炭素排出量 214,055.0 ②使用量 130,805.4 ②使用率 1.04734 ②二酸化炭素排出量 337,478.0 ※総二酸化炭素排出量 551,533.0	①× ②達成
ガソリン使用量削減 産業廃棄物の受入れ量 に対しての使用率を、前年 度比 1%削減	ℓ/年	使用量 4,727.8 使用率 0.16493 二酸化炭素排出量 10,976.3	使用量 3,514.4 使用率 0.16660 二酸化炭素排出量 8,153.5	×
二酸化炭素排出量削減 産業廃棄物の受入れ量 に対しての排出率を、前年 度比 1%削減	kg-co2/年	排出量 763,605.5 排出率 28.12708	排出量 712,399.6 使用率 28.30576	×
水使用量削減 ①前年比 1%削減 ②産業廃棄物の受入れ 量に対しての使用率を、 前年度比 1%削減	m ³ /年	①使用量 439.6 ②使用量 3,532.3 ②使用率 0.02249	①使用量 454.0 ②使用量 2,425.0 ②使用率 0.02323	①× ②×
廃棄物排出量削減 産業廃棄物の受入れ量 に対しての排出率を、前年 度比 1%削減	Kg/年	排出量 1,552.6 排出率 0.05588	排出量 1,346.6 排出率 0.05250	達成

化学物質使用量削減 (中和剤の管理漏洩ゼロ)	件	0.0	0.0	達成
収集運搬・処分における環境 配慮及びサービスの改善	%	①94.5	①94.7	①達成
①リサイクル率の向上	件	②0.0	②0	②達成
②搬入車両の待機時間 20 分以内				

【是正・予防策】

●電気使用量削減①、②

- ・前年度より搬入量（処理量）が減少したことにより、各使用率が悪化した。特に北町中間処理プラント稼働の結果が顕著に現れた。計画運休を導入しているが、プラント運営は稼働すると産業廃棄物の搬入量によって電気使用量は変わらない為、搬入量が減少した際には計画運休を積極的に手配していくよう取り組み、ベムスを有効活用し使用量削減に取り組んでいく。

【是正を行った期】

- ・本社：7-9 月期、10-12 月期、1-3 月期
- ・保土ヶ谷今井事業所：4-6 月期、7-9 月期、10-12 月期、1-3 月期
- ・上瀬谷事業所：4-6 月期、7-9 月期
- ・北町中間処理プラント：4-6 月期、7-9 月期、10-12 月期

●軽油使用量削減①、②

- ・軽油使用量削減②は前年度より受入れ量が減少したが、稼働時間が短くなり使用率を前年度より改善できた。今期の結果を踏まえ来期も効率的な経路を心がけ、重機の円滑な操作を心掛けるよう努める。軽油使用量削減は二酸化炭素排出量削減の占める割合が大きいので、来期以降も目標を達成できるように活動を行っていく。

【是正を行った期】

- ・本社：7-9 月期、10-12 月期、1-3 月期
- ・保土ヶ谷今井事業所：4-6 月期、7-9 月期、10-12 月期、1-3 月期
- ・上瀬谷事業所：4-6 月期、7-9 月期
- ・川崎岡上事業所：1-3 月期
- ・北町中間処理プラント：4-6 月期、7-9 月期、10-12 月期

●水使用量削減①、②

- ・前年度より搬入量（処理量）が減少したが、粉塵などたたせないよう散水は必要となるため使用率が悪化し目標を達成することはできなかった。産業廃棄物の搬入量によって水使用量はそこまで大きく変わらない為、搬入量が減少した際には効果的な散水を行うよう前期に続き是正した。

【是正を行った期】

- ・本社：10-12 月期、1-3 月期
- ・保土ヶ谷今井事業所：4-6 月期、7-9 月期、10-12 月期、1-3 月期
- ・上瀬谷事業所：4-6 月期、7-9 月期、10-12 月期、1-3 月期
- ・川崎岡上事業所：1-3 月期
- ・北町中間処理プラント：4-6 月期、7-9 月期、10-12 月期

●ガソリン使用量削減

- ・担当のいないお客様へ積極的に営業活動を行ってきたが、前年度より搬入量（処理量）が減少したことにより、ガソリンの使用率が落ち込んだ。営業活動を強化が産業廃棄物の搬入量の増加につながるため、効率的な経路を組むなどガソリンを効果的に使用できるよう是正した。

【是正を行った期】

- ・本社：4-6 月期、7-9 月期、10-12 月期、1-3 月期

6. 次年度の環境経営目標及び環境計画

環境経営目標			環境経営計画
項目	内容	目標値	指針
電力使用量削減	①前年比 1%削減 ②産業廃棄物の受入れ量に対しての使用率を前年度比 1%削減	①使用量 : 66,443.9 ①二酸化炭素排出量 : 28,585.2 ②使用量 : 272,034.6 ②使用率 : 1.93748 ②二酸化炭素排出量 : 131,936.7 ※総二酸化炭素排出量 : 155,953.2	◎昼休みの消灯・節電、冷暖房の設定温度調整 ◎効率的なプラント運営 ◎待機電力の削減・コンセントを抜く ◎クールビズ・ウォームビズ ◎適宜、空調設備の清掃をする
軽油使用量削減	(車両) ①産業廃棄物の収集運搬量に対しての使用率を前年度比 1%削減 (重機) ②産業廃棄物の受入れ量に対しての使用率を前年度比 1%削減	①使用量 : 81,523.5 ①使用率 : 0.06989 ①二酸化炭素排出量 : 213,945.1 ②使用量 : 144,699.9 ②使用率 : 1.04853 ②二酸化炭素排出量 : 437,251.9 ※総二酸化炭素排出量 : 651,197.1	◎適度な暖機運転 ◎急発進・急ブレーキ・空ぶかしの禁止、アイドリングストップ ◎効率的な分別作業の実施 ◎効率的な重機の使用、省エネを考えた重機の運転
ガソリン使用量削減	産業廃棄物の受入れ量に対しての使用率を、前年度比 1%削減	使用量 : 4,680.5 使用率 : 0.16328 二酸化炭素排出量 : 10,866.5	◎無駄なアイドリングをしない ◎効果的な運転経路を心掛ける ◎車のメンテナンスをする
二酸化炭素排出量削減	産業廃棄物の受入れ量に対しての排出率を、前年度比 1%削減	排出量 : 755,969.4 使用率 : 27.84580	◎電気使用量と軽油使用量が多いウエイトを占めるので、この 2 項目に注力をする
水使用量削減	①前年比 1%削減 ②産業廃棄物の受入れ量に対しての使用率を前年度比 1%削減	①使用量 : 435.2 ②使用量 : 3,497.0 ②使用率 : 0.02226	◎節水コマの使用 ◎効率的な散水 ◎こまめに使用量の削減
廃棄物排出量削減	産業廃棄物の受入れ量に対しての排出率を、前年度比 1%削減	排出量 : 1,537.1 排出率 : 0.05532	◎廃棄物の再資源化 ◎新しいリサイクル搬出先の確保
化学物質使用量削減	中和剤の管理（漏洩ゼロ）	漏洩件数 : 0.0	◎中和剤の管理を徹底する ◎毎日の点検などを忘れずに行う

収集運搬・処分における環境配慮及びサービスの改善	①リサイクル率の向上 ②搬入車両の待機時間 20 分以内	①リサイクル率： 94.6 ②待機時間超過件数： 0.0	◎事業場内の整理整頓を心掛け、場内の動線を効率よくする ◎円滑な選別を心掛け待機時間を短くする。 ◎リサイクル設備の効果的な稼働
--------------------------	------------------------------------	---------------------------------	--

※目標値：2021 年度実績を基準に設定。

※リサイクル率＝再資源物・中間処理後再資源化物／搬入量

※目標設定時の購入電力の二酸化炭素排出係数：0.485kg-co2/kwh、0.361kg-co2/kwh、0.476kg-co2/kwh を使用した。

※収集運搬業務に力を入れるため化石燃料（軽油・ガソリン）の使用量増加が見込まれる。

※積極的な営業活動を行い、仕事量が増えていくと思うが各使用量を抑えたい。

※事業所により目標設定が異なる。

7. 環境関連法規への違反・訴訟等の有無

当社に関係する環境関連法規は、下表に示す。

内容	法規遵守結果
廃棄物の処理及び清掃に関する法律※施行令、施行規則含む	適合
家電リサイクル法	適合
騒音規制法	適合
振動規制法	適合
消防法	適合
労働安全衛生法	適合
じん肺法	適合
道路運送車両法	適合
自動車 No x ・ P M 法	適合
毒物及び劇物取扱法	適合
下水道法	適合
浄化槽法	適合
横浜市生活環境の保全に関する条例	適合
川崎市公害防止等生活環境の保全に関する条例	適合
フロン排出抑制法	適合
近隣住民との協定	適合

※環境関連法規制への違反はありません。

なお、関係当局からの違反等の指摘は過去 3 年間ありません。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

●今期の取組状況の評価

- ・今期の結果は「電気使用量削減①②」「軽油使用量削減②」「廃棄物排出量の削減」「化学物質使用量削減」「環境配慮及びサービスの改善(リサイクル率)」及び「環境配慮及びサービスの

改善(待機時間)」の7項目を達成することが出来た。昨年度の6項目から比べ1項目と少し改善された結果となった。しかしながら、産業廃棄物の処分量の減少により各使用率の悪化が見られ二酸化炭素排出量が達成することができなかった。

- ・前年度から引き続きプラント工場の計画運休をより積極的に行っているが、産業廃棄物の処分量に左右されないプラント運営の取り組みを引き続き考えていかなければならない。
- ・目標を達成した項目については来期も達成できるよう取り組みを維持していくと共に改善点があれば新たに取り組んでいくようにする。慢心せずに一つ一つの活動を丁寧に行っていく。

●見直し・指示

- ・今期は「軽油使用量削減①」「二酸化炭素排出量削減」「ガソリン使用量削減」「水使用量の削減①②」の5項目が達成できなかった。
- ・「軽油使用量削減①」は収集運搬車の移動経路やアイドリングストップなど再度徹底して削減に努めていく。電気及び軽油の使用量は二酸化炭素排出に大きく関わってくる項目は重点的に取り組みを強化していく。エコアクション21の取り組みは継続して取り組みを行うことが大切となってくるので、長期の視点を持って活動内容に取り組みを落とし込んでいく。

●来期への課題

- ・今期の結果を振り返ると、昨年の反省を活かし積極的な計画運休の効果が見られた活動期間だった。また、昨年度同様に特に「二酸化炭素排出量削減」に影響する「電気使用量削減①②」「軽油使用量削減①②」においては、各事業所での重機類の動線、メンテナンス、運転方法など見直すように引き続き努めていく。
- ・エコアクション21で活動している内容は、環境面だけでなく経営面に直結している業務内容になる為、環境管理責任者を基に取り組みをより一層改善できるようにこちらも引き続き努めていく。

9. 次回の活動予定内容

経営活動を行う中で資源、処理費、備品など次々と高騰してきている。適正な価格を検討すると共に不必要なコストをかけないよう取組みを一層強めていく。人員の入れ替わりも好機と捉え、中長期的な人員育成を行っていき、育成を行う人材育成にも力を入れていく。目まぐるしく周囲環境が変化する中、状況に対応できる組織編制は急務と言えるのでスピード感を持って日々の業務内容をブラッシュアップを行っていく。

次回の環境レポート作成予定日は、2024年6月上旬

10. 2022年度受託した産業廃棄物の処理量

処理方法等	廃棄物等種類	処分方法等	処理量 (t)
(i) 収集運搬	廃プラスチック類		1,020.10
	金属くず		217.10
	ガラス陶磁器くず		854.70
	がれき類		2,125.00
	紙くず		215.30
	木くず		1,583.50
	繊維くず		18.70

収集運搬量合計				6,034.4	
(ii) 中間処理		廃プラスチック類	破碎	1,356.2	
			圧縮	196.8	
			選別	1,132.4	
		金属くず	圧縮	0.0	
			選別	1,321.0	
		ガラス陶磁器くず	破碎	5,026.9	
			選別	3,909.6	
		がれき類	破碎	2,161.7	
			選別	2,518.7	
		紙くず	圧縮	135.7	
			選別	949.4	
		木くず	破碎	1,709.7	
	選別		4,691.0		
	繊維くず	圧縮	69.6		
		選別	471.6		
	うち 再資源化 等 (有償)	廃プラスチック類	圧縮・選別/マテリアルリサイクル(売却)		188.10
		金属くず	圧縮・選別/製鉄原料(売却)		1,258.80
		ガラス陶磁器くず	破碎/破碎・造粒固化		4,962.80
がれき類		破碎/破碎・造粒固化		2,126.90	
紙くず		圧縮・選別/製鉄原料(売却)		394.40	
再資源化等量小計			8,931.0		
中間処理合計				25,650.30	
(iii) 最終処分	廃プラスチック類			0.0	
	ガラス陶磁器くず			0.0	
	がれき類			0.0	
最終処分量合計				0.0	
(iv) 中間処理後の 産業廃棄物	最終処分	廃プラスチック類	安定型埋立(委託)	1,342.40	
		ガラス陶磁器くず	管理型埋立(委託)	4.20	
	中間処理 (再資源化等)	廃プラスチック類	燃料化・マテリアルリサイクル等(委託)		1,155.10
		金属くず	製鉄原料		62.20
		ガラス陶磁器くず	建設資材化等(委託)		3,931.90
		がれき類	建設資材化等(委託)		2,532.90
		ガラス陶磁器くず・がれき類	セメント原料(委託)		58.00
		紙くず	製紙原料・焼却・熱利用(委託)		690.70
		木くず	燃料チップ化・サーマルリサイクル等(委託)		6,400.70
		繊維くず	燃料化・サーマルリサイクル等(委託)		541.20
		再資源化等量小計			15,368.70
中間処理後処分量合計				16,715.3	